

### 【93】 “ワシ、このキズ気に入ったんや！”

関東育ちの我家一家が、和歌山市に赴任・転居した時の事です。

休日に皆で大阪へ遊びに行こうと、南海電鉄の和歌山市駅の駅ビルの店を覗いていたら、アロハ姿のオニイさんが若い女店員と盛んにやりあっています。

耳に入ってくるので聞くともなく聞いていると、安売りのサングラスをもっと負けろと掛け合っているのです。

何でも手にとったサングラスに傷が付いているとのことで、キズモノだから安くしろと要求しています。

店員がキズの無い別のにして下さいと云っているのですが、くだんのオニイさんは承知せず、とうとう”ワシ、このキズ気に入ったんや！”と声を大きくして言いました。

しまいには、”オマエじゃダメだ。店長を出せ、店長を“という騒ぎになりました。

オニイさんの名誉のために付言しますと、その場面に暴力的な脅迫的な雰囲気はありませんでした。

関東人からすると、見栄があって、安売りサービス品をさらに負けろなんて恥ずかしくて言えません。

時間が来たので、やりとりの結末を知らずに電車に乘りましたが、車中で先刻のやりとりを思い出して考えてみると、オニイさんの言い分にも一理あることに気付きました。

たかが安売りのサングラス一つだから、滑稽なのです。

これが大量の原材料や商品の売買なら、その品質や性能をめぐって、売手と買手の間で価格交渉をするのは当然のことで、何の不思議もありません。

流石は関西は商人の国であると納得したのですが、どうも落着きが悪いのです。